

京都府福知山市 「地域連携サポートプラン」

提 案 書



平成 29 年 7 月

国土交通省

近畿運輸局

近畿運輸局京都運輸支局

市の概要

- 京都府の北西部に位置し、市の北部は大江山、赤石嶽、三岳山など標高800m前後の山岳地帯で、中心部は400～500mの山々に囲まれた盆地となっている。この盆地を通り、近畿北部最大の河川、由良川が日本海へと流れている。
京都市・大阪市・神戸市と70km前後のほぼ等距離にあり、京阪神と山陰・丹後地方を結ぶ交通の要衝、並びに北近畿の玄関口という立地条件にある。
- 市街地は福知山駅周辺及び国道9号線等幹線沿いに構成し、その周辺に農山村地域が広がっている。
- 平成18年1月、旧福知山市、三和町、夜久野町、大江町の1市3町が合併し現在の福知山市に。
- 人口は、昭和60(1985)年の83,057人から横ばい傾向で推移し、平成12(2000)年に83,120人でピークを迎え、その後減少傾向となり、平成29(2017)年3月末時点で79,049人となっている。
国立社会保障・人口問題研究所によると、何も施策を講じなければ、人口減少は続き、平成52(2040)年には6万人程度になると推計されており、市策定の「福知山市人口ビジョン」による人口増加施策を実施することにより、将来目標人口を平成52(2040)年時点で78,300人に設定している。



福知山市



公共交通に関する計画及び取組み

- ▽福知山市公共交通（バス）再構築に関する基本方針（平成22年11月）
バス路線、運行システム、利用環境の整備、過疎地域の移動手段の確保
 - ▽未来創造 福知山(第5次福知山市総合計画版)（平成28年3月）
コンパクトな都市(コンパクト+ネットワーク)づくりと連携した交通体系の整備
地域の実情とニーズに対応した交通体系の再編・整備
交通空白地対策や高齢者等配慮した移動手段の確保
 - ▽福知山市地域公共交通網形成計画（平成28年3月）
市民、交通事業者、行政の役割の定め、計画的に取り組みを進めることにより、持続可能な地域公共交通網の形成を目指す。
 - ▽福知山市版 地域公共交通再編実施計画（平成29年6月）
- ※地域公共交通の再編を行う対象としては、一度にすべての再編事業を実施することは困難なため、地域や路線の状況に応じて段階的に進める。【平成28年第3回市議会定例会より】



▲まちなか循環バス



▲福知山市営バス

公共交通の現状

- 鉄道は、JR山陰本線・福知山線、京都丹後鉄道・宮福線が福知山駅で結節し、北近畿と京阪神地域を結ぶ鉄道交通の中心となっている。
- バスは、民間バス3社（京都交通、西日本ジェイアールバス、丹後海陸交通）が福知山駅周辺及び国道9号、175号線等幹線沿いを運行し、福知山市による市町村有償運送（以下「市バス」という。）、自主運行バス（三岳・庵我・中六人部バス運行協議会による自家用有償旅客運送）が市周辺部を運行しており、計30路線となっている。
他に、公共交通空白地において、NPO法人等（3団体）が公共交通空白地有償運送事業として地域コミュニティ交通を展開している。
高速バスは福知山駅と阪神地域、愛知県及び東京都心部を5路線結んでいる。
- バス利用者の減少による採算性の悪化から、運行本数の減便など利便性がさらに低下し、運行確保のための財政負担が拡大する悪循環となっている。
- 利用者の大半が高齢者であり、バス停留所まで移動できないなど、バスを利用しづらい状況が広まっている。
- 学校統合に起因して周辺部で導入が検討されているスクールバスについて、地域住民の移動手段確保のため、住民利用（混乗化）を検討している。
- 時刻表・路線図・運行状況等、路線バスに関する分かりやすい情報提供について不十分な点がある。

課題

- ① バスネットワークの再編、代替交通の確保
- ② スクールバスの活用（一般乗客との混乗）
- ③ バス停留所の工夫による利用促進
- ④ ICTの活用・ユニバーサルデザイン化による利用者目線に立った情報発信

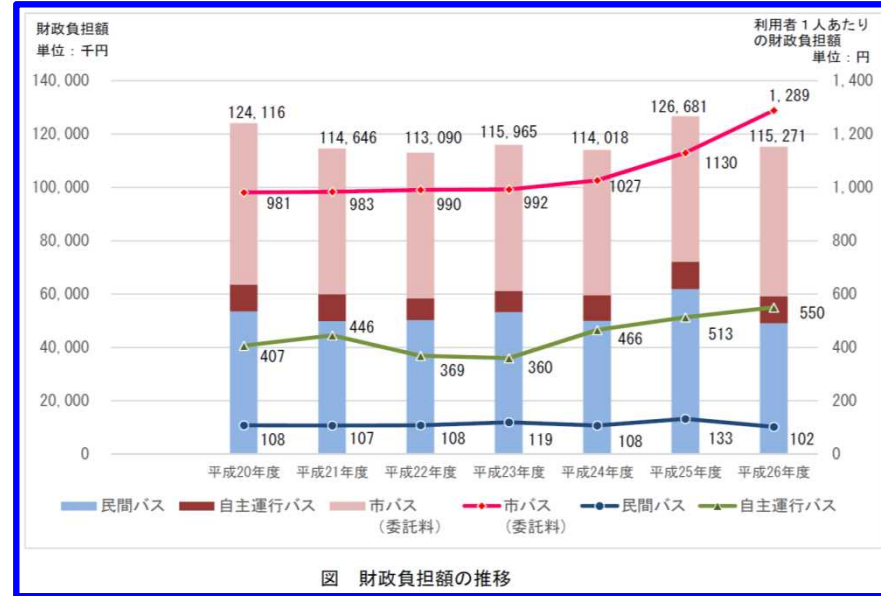
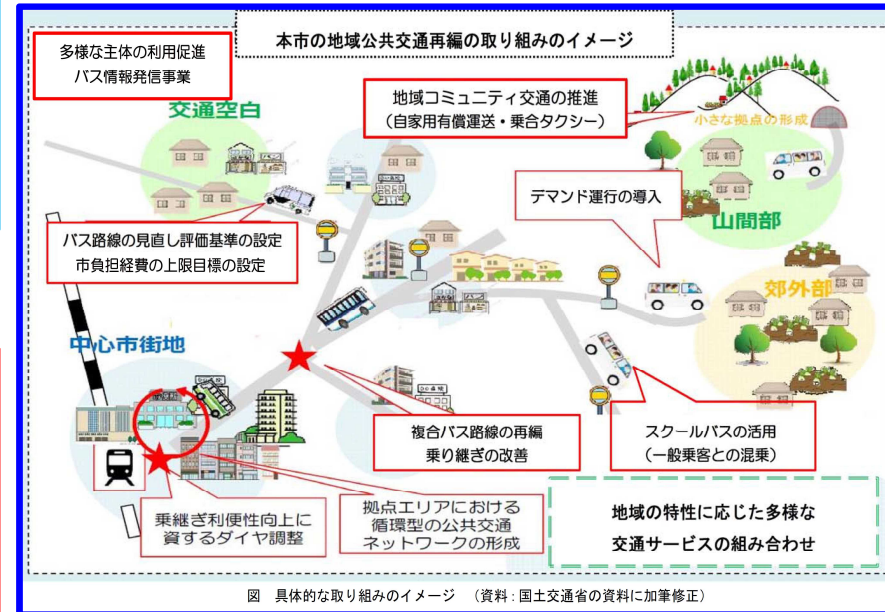


図 財政負担額の推移

▲福知山市のバスへの財政負担額の推移



▲福知山市地域公共交通網形成計画・具体的な取組のイメージ

課題①に対する提案

バスネットワークの再編、代替交通の確保

○市町合併から10年以上が経過したが、バスネットワークは基本的に合併前の形態を引き継いでいる。住民の移動ニーズの変化を正確に把握し、需要に応じた運行形態・サービスレベルに見直すことによりバス交通の最適化を図ることが必要である。

○その際、既存の公共交通の維持が困難と見込まれる地域においては、各地域の実情に合わせた地域コミュニティ交通を導入することにより、運転免許を持たない(返納した)高齢者等の移動手段を確保する必要がある。

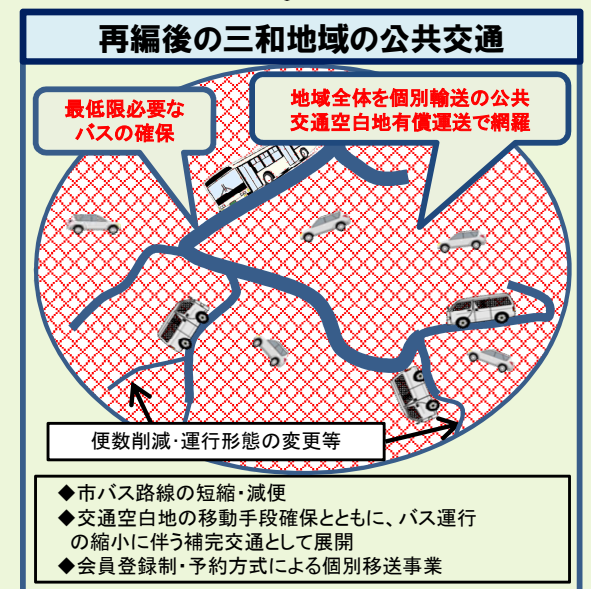
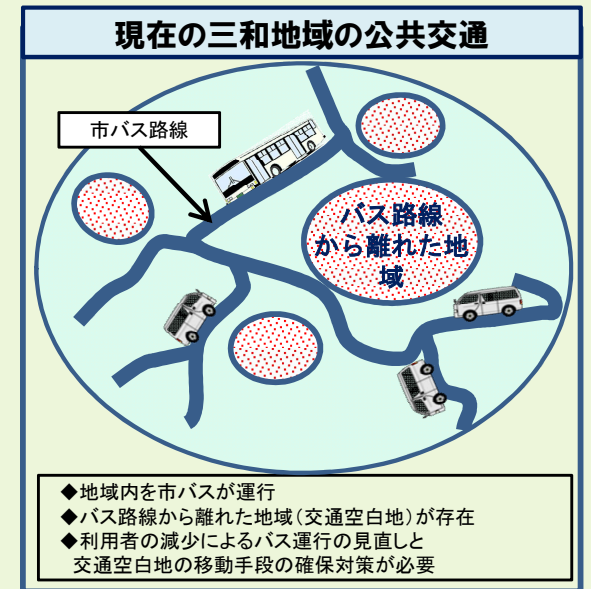
※国土交通省の「高齢者の移動手段の確保に関する検討会 中間取りまとめ」(平成29年6月)(以下「高齢者検討会 中間取りまとめ」という。)においても、自家用有償運送の更なる活用のため、導入検討プロセスのガイドライン化や市町村が主体となる場合の運用緩和等の施策が講じられることとされているので、活用を検討されたい。

○バス交通の再編にあたっては以下の点に留意する必要がある。

- ・ 民間バス・市バス・自主運行バス、それぞれの役割分担を明確化し、交通事業者や地域の関係者と丁寧に協議を進めること(例:福知山市地域公共交通網形成計画に「乗継改善事業」の一環として位置づけられている民間路線バスと自主運行バスの乗降制限に関する協議に際して、運行ダイヤの調整を行う等)
- ・ 観光・まちづくり等関連する地域戦略との整合を図るとともに、文教・福祉等の政策分野とも連携すること。
- ・ 再編に関する議論や利用促進に向けた取組みに利用者が積極的に参画すること。
- ・ 客観的な基準を設ける等して適切に評価を行い、必要に応じて更なる見直しを行うこと。

○市が先行的に検討している三和地域での再編においても、上記の観点を踏まえて進めることが望ましい。

○また、他地域の再編を検討する際には、三和地域の経験を活かしつつ、地域公共交通活性化・再生法に基づく地域公共交通再編実施計画を策定し、国土交通大臣の認定を受けることにより、手続きのワンストップ化、サービスの持続的な提供の担保、各種支援の充実等のメリットを活用することも検討すべきである。



▲福知山市が目指す三和地域(交通空白地)再編イメージ図

課題②に対する提案

スクールバスの活用（一般乗客との混乗）

○スクールバスの地域住民の混乗、昼間時の公共交通への活用は、交通空白地の解消や実質増便による利便性向上に資する取組みであり、地域の資源の有効活用の観点から、「高齢者検討会 中間取りまとめ」及び国土交通省の「地域公共交通の活性化及び再生の将来像を考える懇談会 提言」（平成29年7月）（以下「将来像懇談会 提言」という。）においても、促進すべき取組みとされている。

○その際には、地域住民や保護者の理解を深めることが必要である。具体的には、教育委員会と交通担当部局との相互理解と地域への丁寧な説明が重要である。

○また、他地域の事例・経験から、以下の点がポイントとなるため、参考とされたい。

- ・保護者の不安解消のため、児童・生徒以外の一般住民は予約制とし、予約に応じて運行する区間を設定したり、着座位置の分離、ドライブレコーダー（車内外）を導入すること。
- ・悪天候時などの学校休校日に運休となる場合は周知すること。（メールサービス、電話による音声案内など。）
- ・運賃や既存事業者との競合については関係者と調整すること。

※これらの詳細については四国運輸局による「スクールバスと路線バスの役割分担による効率的・効果的なバスネットワークの形成に関する調査業務報告書」を参照されたい。

<http://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/bunya/koukyou/index.html>

○なお、スクールバスの活用については以下のとおりの取扱いであるので参考とされたい。

- ・へき地児童生徒援助費等補助金により整備したスクールバスであっても、文部科学大臣の承認を得れば通学以外の目的での運行や便乗が可能。
- ・通学以外の目的での運行や便乗をしている場合でも、児童や生徒の登下校に支障がない限り、スクールバスの運行費については普通交付税措置が行われる。

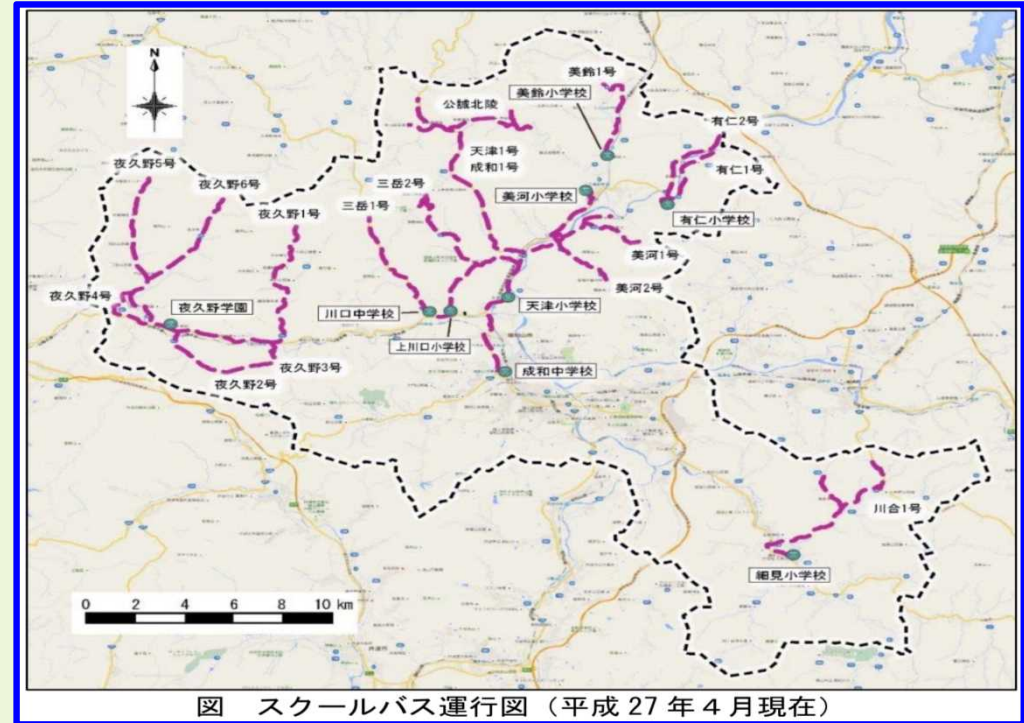


図 スクールバス運行図（平成27年4月現在）

▲福知山市地域公共交通網形成計画より



▲福知山市スクールバス

課題③に対する提案

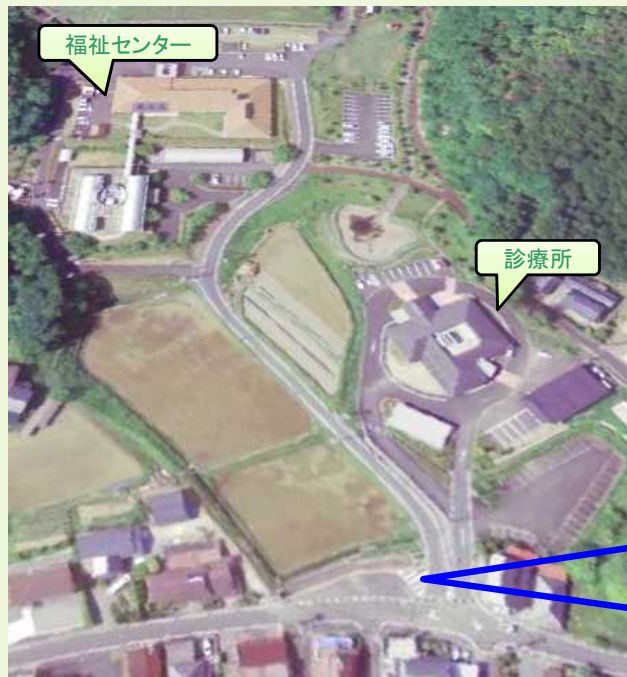
バス停留所の工夫による利用促進

○施設への乗入れ等を通じた安全性・利便性の向上

・冬季の降雪も踏まえ、日常生活において利用頻度が高い施設については、当該施設の敷地内までバスが乗入れることにより、アクセス、乗り継ぎ機能、そしてバス待ち環境の改善を図ることが安全性・利便性向上に資すると考えられる。

※「将来像懇談会 提言」においても、待合環境の改善を通じた公共交通の利便性向上が重要であるとされている。

・これまでも市民病院やスーパーの敷地乗入れを行っている事例があるが、取組みの拡大が求められる。



例1 「三和診療所・福祉センター」

市バスの最寄りバス停から診療所や福祉センターまでは距離がある上に、坂道に登る必要がある。バリアフリーの観点からも、施設の受付時間帯には施設入口までバス乗入れを検討してはどうか。

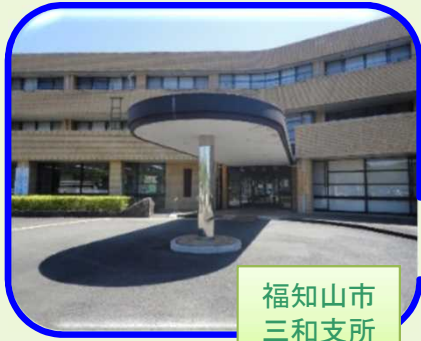


市バス:福祉センター前バス停

▲ (出典) 電子国土Web(国土地理院)
(福知山市三和町千束付近)

京都府福知山市における地域連携サポートプランの概要・提案

課題③に対する提案



福知山市
三和支所



▲(出典) 電子国土Web(国土地理院) (福知山市三和町千束付近)



千束バス停

鉄道と路線バス又は
路線バスと路線バスの
結節点となる
主なバス停

- 福知山駅
- 福知山市民病院
- 上川口
- 天津出合
- 筈巻
- 石原
- 丹波岩崎
- 公庄駅前
- 大江駅前
- 内宮駅前
- 上夜久野駅
- 下夜久野駅
- 千束(三和)
- 菟原(三和)
- 下ノ段(三和)
- 新橋(三和)

▲福知山市地域公共交通網形成計画より

例2 「福知山市役所三和支所」

せんぞく

福知山市役所三和支所の最寄りバス停である千束バス停は三和地域の主要交通結節点(バス乗継場所)としても機能している。しかしながら、横断施設が近辺になく、バス利用者の車道横断を誘発するおそれがあることから、屋根付きスペースのある三和支所敷地内にバス停留所を新設し、バスを安全かつ快適に乗り継げる環境整備を図ってはどうか。

○パーク&ライド・サイクル&ライドの推進

- ・「利用者」から市に対して、年齢層を問わず「駅やバス停などの周辺の駐車場や駐輪場を充実させる」との要望があることを踏まえ、具体的なニーズを見極めつつ、駅やバス停などの周辺に駐車・駐輪場の確保を検討することが適当である。
- ・パーク&ライド・サイクル&ライドの実施にあたっては、既存の公共施設の駐車・駐輪場を活用するとともに、モビリティ・マネジメント(MM)の推進に協力頂ける地域企業などに対し、駐車・駐輪スペースの提供を募集していくことも検討されたい。(固定客の確保、企業のイメージアップ等の効果も見込める) なお、施設を整備する際には駅やバス停に、最寄りの駐車・駐輪場設置箇所の看板を設置するなど、情報発信も実施されたい。
- ・サイクル&ライドの推進にあたっては、第10次福知山市交通安全計画による自転車の利用マナー向上の促進も必要。

○住民との協働によるバス停留所の維持管理

- ・福知山市地域公共交通網形成計画に掲げる、市民協働型利用促進事業の一環として、バス停留所の維持管理に地域が参画する仕組みを構築することは、公共交通への愛着や利用促進に向けた意識醸成にもつながり有効である。

※これらの詳細については北海道運輸局による「利用者・バス事業者双方にとって利便性が高いバス停留所のあり方についての調査業務報告書」を参照されたい。

https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/bunyabetsu/tiikikoukyoukoutsuu/41tyousakentoukekka/basuteiryuujiyo/index_basuteiryuujiyo.html

課題④に対する提案

ICTの活用・ユニバーサルデザイン化による利用者目線に立った情報発信

○ICTを活用した来訪者（訪日外国人観光客含む）向けサービスの充実

・来訪者向けサービスとして、以下のような情報案内の充実のための取組みが有効である。

-Wi-Fi 環境の整備

-ポータルサイト等による公共交通に関する情報発信

-バスロケーションシステムの導入

-地域情報等を組み合わせた路線検索サービスの提供・観光モデルコースの提案等、観光関係の取組みとの連携

※「将来像懇談会 提言」においても、ICTを活用した情報提供の充実が利便性向上の一手法として推奨されている。

○交通結節点における分かりやすい情報提供

・福知山駅などの乗り換えが多い場所において、バス利用者へのわかりやすい情報提供が必要である。

○バス利用者への情報提供のユニバーサルデザイン化・多言語化

・案内標識は、ユニバーサルデザインの観点から、高齢者・障がい者に配慮した表示内容（大きさ・明るさなど）とする必要がある。また、外国人観光客が多い地域においては、言語バリアフリーの観点から、多言語表示の検討が必要である。

※これらの取り組みについては、観光拠点の整備と、訪日外国人向け多言語化対応等と同時に進めることで、国の支援制度である「訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業費補助金」（交通サービスインバウンド対応支援事業（調査事業・利用促進事業））等、国の支援制度を活用することも可能。



▲JR明石駅：あかしびじょん。

※平成27年地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰を受賞している、「明石市地域公共交通会議」の取り組みとして、市と各交通事業者間で適切に役割分担を行い、積極的な利用促進策（ICT活用含む）を多く実施しているので参照されたい。

（近畿運輸局HP）地域公共交通活性化シンポジウムin関西【明石市資料 その1】

<http://10.11.5.4/kinki/kansai/program/tacobustorikumi1.pdf>

明石駅前広場へのバスロケーションシステム表示器の整備完了について【明石市資料 その2】

<http://10.11.5.4/kinki/kansai/program/tacobustorikumi2.pdf>

協定締結から現在に至るまでの主な取り組み

1. 平成28年8月25日
地域連携サポートプランの協定を締結
2. 平成28年秋以降
市・局・支局による意見交換の後、現状・課題について整理を行い、他地域における自家用有償運送事例、他自治体における運行継続基準、ICTの活用事例など紹介
3. 平成29年4月～5月
市による三和地域における公共交通再編モデル事業案について、市・局・支局による意見交換、再編予定地域における現状確認を実施



▲地域連携サポートプラン締結式



▲千束バス停：福知山駅方面



▲道路を隔てたバス停から三和荘(宿泊施設)を見る



▲市立福知山市民病院（バス乗り入れ箇所）